

# 大雨などによる災害について

## ～洪水、土砂災害～

\*洪水は台風、集中豪雨、融雪でも起こります。

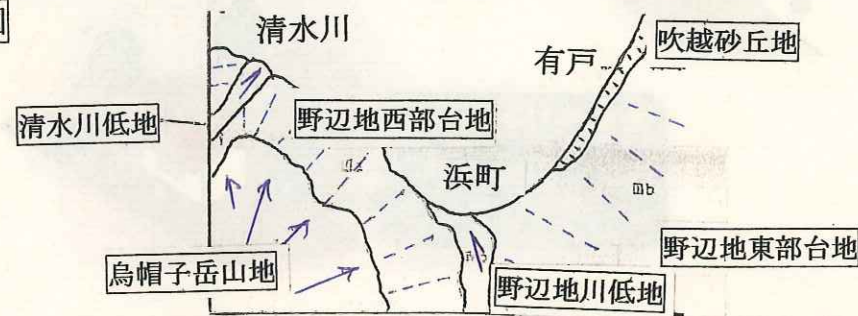
\*土砂災害は地盤が軟らかくなったり、緩んだりすることで起こります。

### 水と地形

地形的見ると、野辺地町は烏帽子岳などの山地、その山ろくに広がる台地、低地、砂丘に区分されています。地質は、大まかにいうと山地は岩盤で、台地は比較的若い砂岩や凝灰岩と広く火山灰で広く覆われています。低地は砂、粘土、礫などが幾層にも重なっていて、全体的にゆるい堆積物からできてます。

山地は降雨や融雪水を供給して比較的早期に流下させます。台地は広域に集水、貯留をする場所になっています。これらのバランスが崩れると、水災害が発生します。

地形区分図



### (例) 枇杷野川を調べる

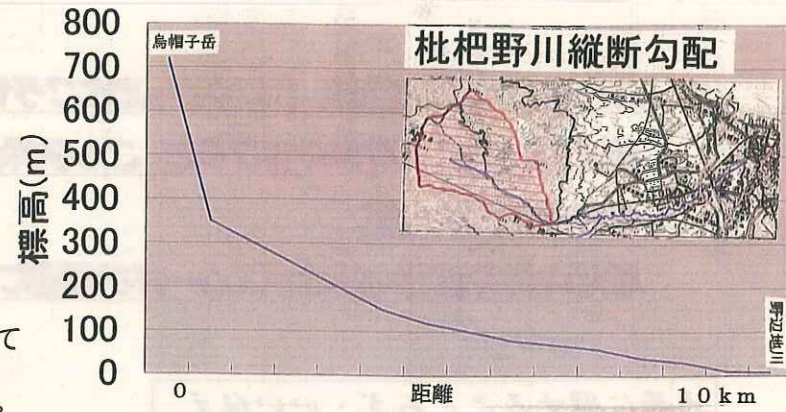
#### (1) 縦断勾配

\*烏帽子岳を源流として、約11kmを流下して、町内で野辺地川下流と合流する。

\*勾配は大きく3区分される。

#### (2) 水はどこから集めているか (集水面積)

\*ほとんどが、山岳からのもので地表水、中間水として流下。地下水となったものは、山ろくの台地で貯留。



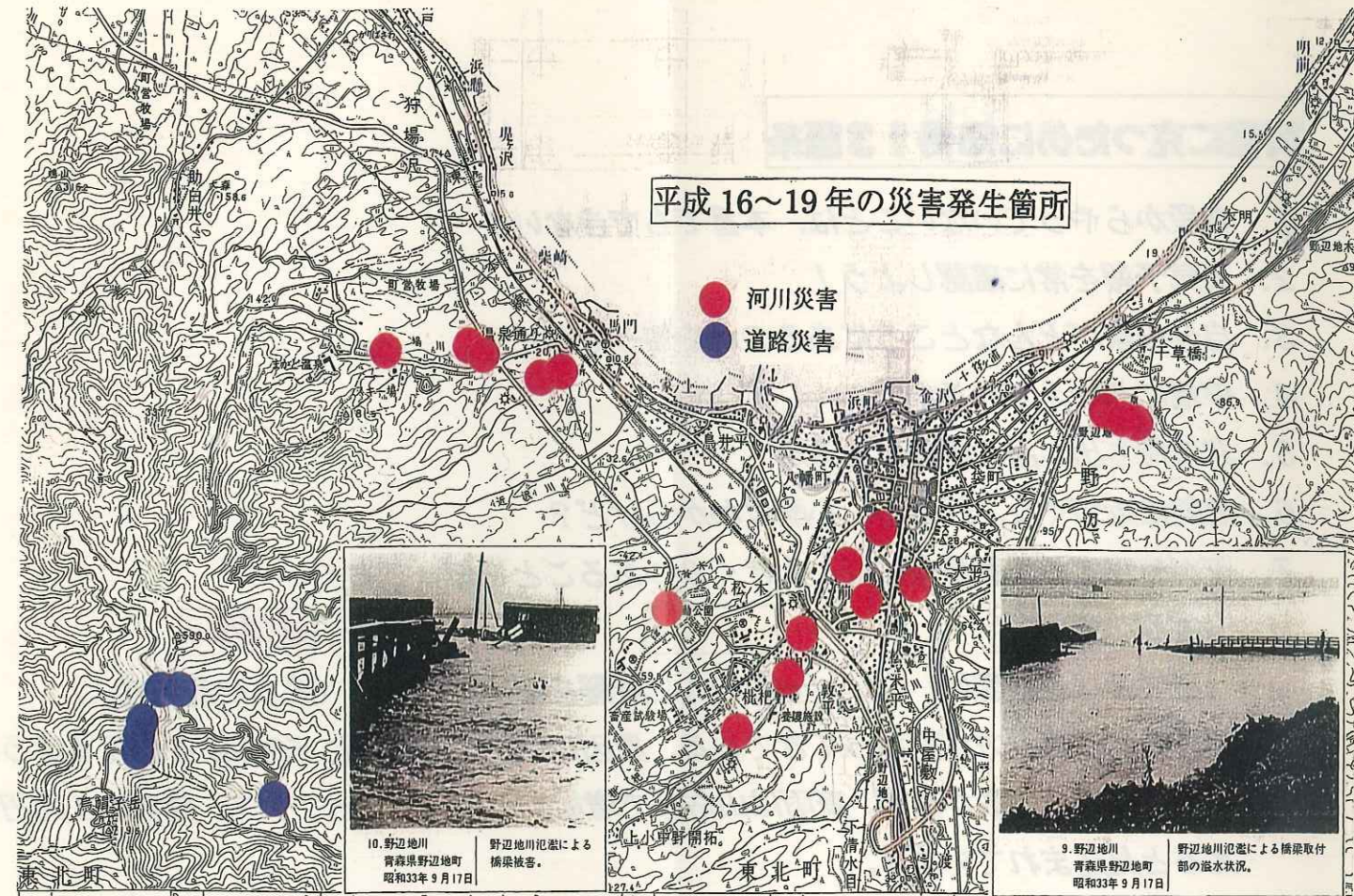
#### (3) 川の形

\*浸透、流出がバランスしているときには問題ないが、各々能力を超えたときに洪水となる。

\*中間部には蛇行部があるが、地形地質の支障条件によるというよりも広範囲で氾濫したことによると考えられる。

#### (4) どんな災害を発生させるか

\*最も考えられるのは蛇行部での溢水ならびに下流での洪水による災害。



### 最近の水災害から学ぶ

#### ○ 高齢者の被災

- 75歳以上の方の犠牲が多い。いろいろなケースがあるが、被災場所は圧倒的に屋外で、田畑の見回りなどが含まれます。
- 災害弱者(高齢者、寝たきり、子供)に対する支援行動としては声えがけが多く、日ごろの近所づきあいが力になります。

#### ○ 避難勧告

- 発令タイミングが遅くはいけません。受け手も正確に把握するようにしなければなりません。
- 伝達方法については、事前から相互に確認しておかなくてはなりません。

#### ○ 避難困難者

- 地域コミュニティがあるかどうか、機能するかどうかが勝負です。頼りになる、頼りにするお付き合い。

#### ○ 出水特性

- 短時間で破堤に至ることがあり、想定外という表現であとで後悔します。

#### ○ 生活スタイル

- 河川を意識しないでの日常でなく、外水が家まで来るとの予想ができていないことによります。

#### ○ 流域への関心

- 流域認識の欠如、自宅周辺での雨がやんでも上流は大雨のことがあります。



## 災害に克つために知得13箇条

1. 普段からやっていないことは、本番でもできない!
2. 天気予報を常に確認しよう!
3. 自分の家がどんなところにあるのかを知っておく!
4. 停電にそなえているか
5. 非常持ち出し品の準備はあるか
6. 危険に近づくな、好奇心、心配はわかるけど?
7. 町が発表する避難情報には、大きく3つあることを知っておく

避難準備情報

→ 避難勧告

→ 避難指示

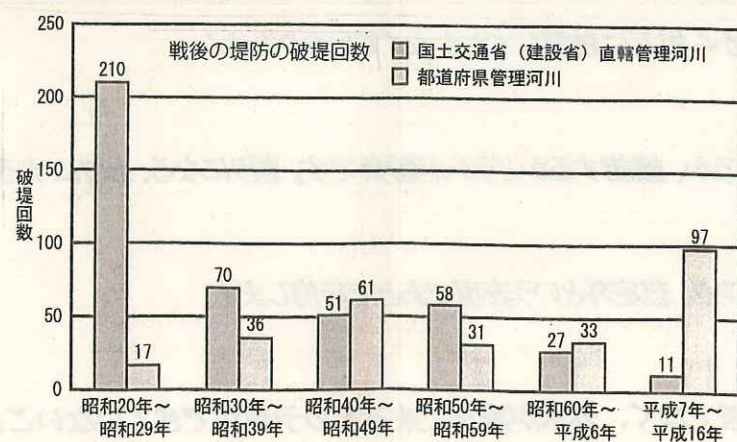
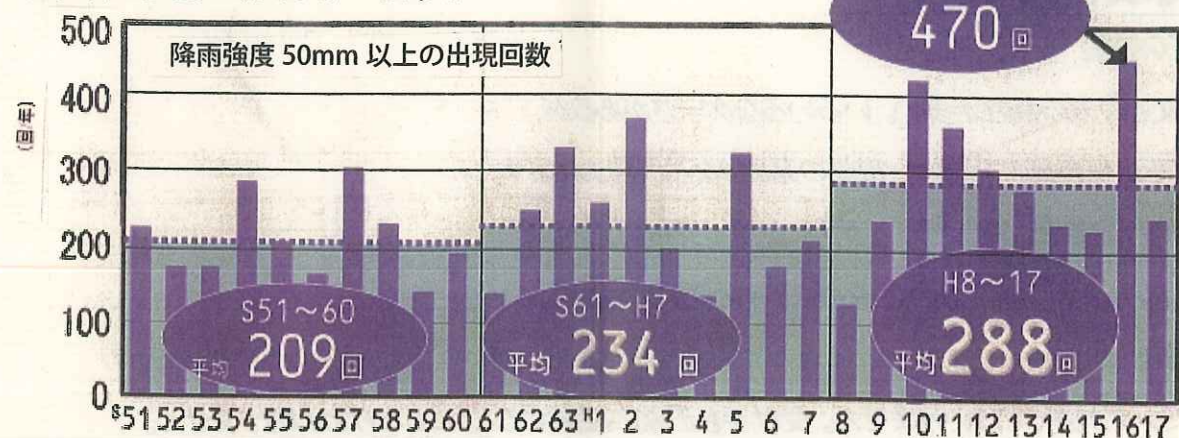
(高齢者は避難開始)

(一般の人に避難を促す)

(直ちに避難せよ)

8. 最近の雨の降り方が変わってきている。原因は不明。1時間に50mmを越えるような猛烈な雨の降る回数が激増。豪雨は山岳部で増加する傾向になっていて、被害も1兆円を越えたと見込まれています。

1日400mm降るのはいまは100年に一度が、今後はその頻度が増し、土砂災害も比例して拡大するといわれています。



9. 情報は受け手と送り手が同じ認識にないと意味がない。日頃から情報から具体的なイメージできる訓練が必要。

## 10. 用語についての理解。知っていますか?

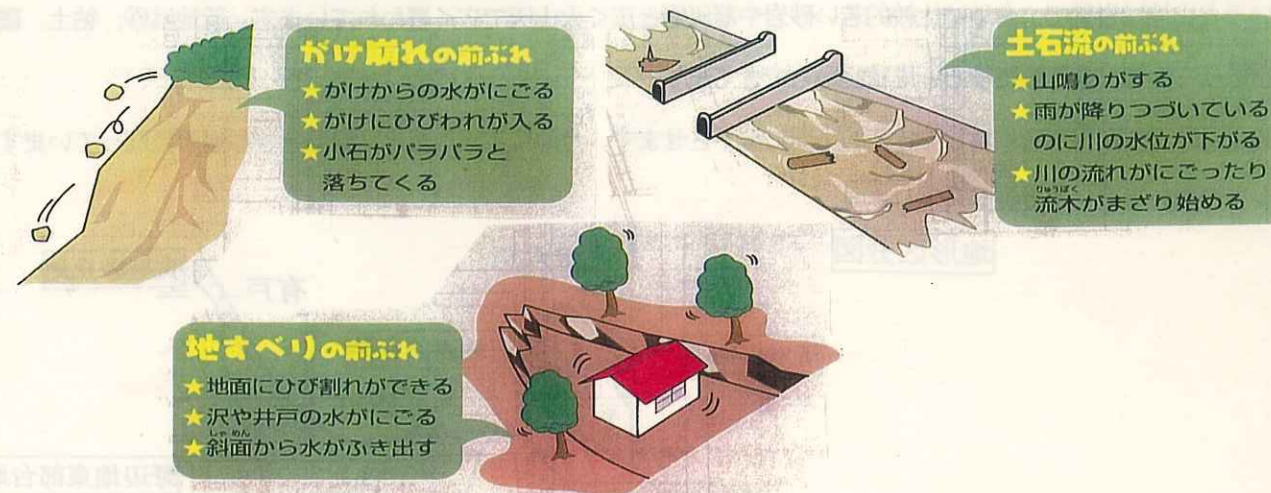
\*越水と溢水：川から水があふれるとき、堤防があれば越水、なければ溢水。

\*計画洪水位(危険水位)：この水位の水が安全に流すように堤防が設計されている。

\*警戒避難基準雨量：過去の経験から、避難行動するための基準となる雨量。

\*実効雨量：これまでに降った雨のうち、蒸発や地下水として失われた量を除いて、地盤中に残っている雨量

11. 情報はきめ細かく、事態の変化を追って伝え、災害の危険性が高まっていることを受け止める。
12. 土砂災害の危険性を的確に察知し、タイミングよく発生地を予測して情報を発表することは難しい。日ごろからの自衛手段が求められる。前触れ、言い伝え等も重要。



## 13. 避難場所の安全確認とそこへ行くまでのルートの確認

**これまで大雨を経験していなかったところや普段は水量の少ない中小河川の流域での洪水が増えています。「自分のところで、こんな洪水になるとは思わなかった」「自分だけは大丈夫」との自信過剰は危険。**

**地元の防災意識の高さがスムーズな避難につながります。想定外では後の祭り。**

大雨に関することわざ・いい伝え

- ☆ ミツバチがよく働く時は翌日大雨の兆しなり (青森県)
- ☆ コブシの花が上を向いて咲けばひでり、横向きに咲けば風、下向きに咲けば長雨 (青森県)
- ☆ 山グリの花多く咲く年は洪水あり
- ☆ ハチ、ヒバリが高きところに巣を造るは洪水の前兆なり
- ☆ ネズミの行列は大水の兆し (秋田県)